

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/30～9/6	9/6～9/13	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	0.018
		セシウム137	0.089	0.15
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	0.013
		セシウム137	0.035	0.065
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	0.066
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	0.024
		セシウム137	0.081	0.17
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	0.018
		セシウム137	0.024	0.080
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	0.041
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.029	0.058
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.032	0.074

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/30～9/6	9/6～9/13	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.013	0.036
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.030

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第69回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(平成29年8月30日～平成29年9月13日)

平成29年8月30日～9月13日の間、南相馬市の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム134(平均0.003 mBq/m³)およびセシウム137(平均0.056 mBq/m³)ともに低い値で推移しています。これらの放射性物質は、福島原発事故で放出されたものであることに違いはありませんが、その量は、自然界に存在するラドンのわが国における平均濃度(5.4 Bq/m³)の百万分の1以下であり、健康影響を心配することはありません注1。

注1日本の自然放射線による線量
<http://www1.s3.starcat.ne.jp/reslnote/NATURAL.pdf#search=%27日本各地の空気中ラドン濃度%27>